



開物成務

郡山市立開成小学校

学校便り No.46

平成30年3月1日

文責：校長 伊藤孝行

平成30年度教育課程について
「変わる時」は「変える時」なのです⑦

またまた新しい動きが！

先週、県教育長が県議会の中で、学力向上策の一環として、福島県独自の新たな学力テストを実施すると答弁しました。

【新しい学力テストの実施について】

- 主催者：福島県教育委員会
- テスト名：ふくしま学力調査
- 実施時期：平成31年4月から
- 対象学年：小4から中2まで
 - ※ 5年間の経年変化を検証する
 - ※ 現在の4年生が6年生になると、4月に全国学力テストとふくしま学力調査の両方を受けるようになります。
- 対象教科：国語，算数（数学）
- 出題範囲：前学年の学習内容

正直なところ、「ふくしま学力調査」には驚きましたが、学校としては、子どもが不利益にならないよう万全の準備で臨みたいと思います。「教職員多忙化解消アクションプラン」と「ふくしま学力調査」が新たに決まり、計画の修正に加え、30年度末における学習充実の必要性がさらに高まりました。

携帯・スマホの校内持ち込みについて

郡山市では、市全体として小中学生が携帯電話やスマートフォンを校内に持ち込むことを原則禁止としています。

これは、携帯電話やスマートフォンを媒介に子どもたちが様々な事件やトラブルに巻き込まれることを防ぐためのきまりです。

しかし、最近、一部きまりを破る子どもが見られます。開成小では「小さなきまりを守る」ということを大切にしています。

3・11東日本大震災とその後

3月は東日本大震災を思い出す月です。あれから7年になりますが、今でも東京電

力福島第一原子力発電所の爆発事故の影響は色濃く残り、今でも大きな課題として様々なものが残されています。

また、東日本大震災以降、「未曾有」「想定外」「想像を絶する」出来事が頻発するようになり、単なる経験値は役に立たず、正確な情報の収集と選択、冷静な判断の必要性が問われています。

① 原発事故に伴う原子力災害

「原発は安全だ」と教わり私たちは育ってきました。安全神話が崩れ、事故が起こり人間の力ではどうすることもできない事態が続いています。今でも県産の農水産物は風評被害にさらされています。しかし、世間では被災地は忘れられつつあります。

② 少子化・人口流失

東日本大震災以降、福島県は人口減少に転じました。郡山市でも少子化は続き、市内全体で、今年度末の小学校卒業生に比べ新年度入学生は約400人減少します。

③ 急変する天候と自然災害

地震との関連は不明ですが、猛暑、ゲリラ豪雨、線状降水帯等の馴染みのない気象用語が使われるのは震災以降のことです。

予想もしない場所での火山の噴火も頻発し、日常生活がマヒするほどの大雪も各地で発生するようになりました。

これらの出来事には、とても大きな壁を感じますが、これらを乗り越えることができるのも人間の英知です。

私たちの世代で叶わないことは、子どもたちの世代で叶うと信じ、未来を託す頼もしい子どもを育てたいと思っています。

3月2日授業参観・PTA・クラブ後援会総会

明日は、今年度最後の授業参観となります。子どもたちの1年間の成長の様子をぜひご覧いただきたいと思います。また、PTA総会・クラブ後援会総会もごさいます。大切な会ですのでよろしくお願いいたします。